

手稲の風と共に

【発行】

令和8年(2026年)3月27日

北海道札幌手稲高等学校

今春の国公立大学への現役合格者は152名! ～生徒の素直さと先生方の情熱が奏功～

【国公立大学】

北海道大学	16名	小樽商科大学	10名	北海道教育大学	31名	旭川市立大学	4名
室蘭工業大学	15名	北見工業大学	3名	札幌医科大学	1名	札幌市立大学	4名
釧路公立大学	8名	名寄市立大学	2名	公立千歳科学技術大学	10名	公立ほこだて未来大学	6名
弘前大学	15名	岩手大学	3名	秋田大学	1名	山形大学	2名
茨城大学	2名	新潟大学	5名	金沢大学	2名	富山大学	1名
横浜国立大学	1名	静岡大学	3名	信州大学	2名	山梨大学	1名
大阪教育大学	1名	広島大学	1名	青森県立保健大学	1名	秋田公立美術大学	1名
宮城大学	1名	新潟県立大学	1名	三条市立大学	1名	長岡造形大学	1名
公立小松大学	1名	高崎経済大学	2名	東京都立大学	1名	前橋工科大学	3名
長野大学	1名	広島市立大学	1名	下関市立大学	1名	北九州市立大学	1名

【道内国公立大学現浪合計 110名】

【道外国公立大学現浪合計 57名】

【道内私立大学】

札幌大学、札幌学院大学、札幌国際大学、藤女子大学、北星学園大学、北海学園大学、北海商科大学、北海道医療大学、北海道科学大学、日本赤十字北海道看護大学、北海道武蔵女子大学、酪農学園大学、北翔大学、北海道文教大学、天使大学、札幌大谷大学、星槎道都大学、千歳リハビリテーション大学、日本医療大学、北海道情報大学、札幌保健医療大学、北海道武蔵女子短期大学、札幌大谷大学短期大学部

【道外私立大学】

金沢工業大学、亜細亜大学、学習院大学、工学院大学、国士舘大学、東海大学、中央大学、拓殖大学、順天堂大学、摂南大学、専修大学、創価大学、玉川大学、千葉工業大学、東京家政大学、東洋大学、東京経済大学、東北芸術工科大学、日本大学、法政大学、明海大学、明治学院大学、早稲田大学、明星大学、目白大学、立正大学、立命館大学、関西大学、京都外国語大学、近畿大学、福岡大学

【看護系専門学校】 北海道医療センター附属札幌看護学校、北海道看護専門学校

【公務員等】 警視庁、国家公務員一般職、北海道警察

～令和8年3月25日現在～

「新たな転換期」

校長 古谷 尚

皆様方におかれましては、日頃より本校の教育活動推進に多大なるご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨春、母校である札幌手稲高に赴任し1年が経過しようとしています。高校時代を過ごした学校周辺は随分と変わってしまいました。手稲駅から途切れなく商店が並び、手稲高から石狩方面の道もほとんど商店はありませんでしたが、大型施設や飲食店等が軒を並べています。一方、母校へ40年ぶりに帰ってきて、昔と変わらぬ校舎と土の匂い、私の原風景がありました。そして、生徒に変わらず情熱を注いでくれる教職員がいました。

コロナ禍をきっかけとして、社会は大きく、絶え間なく変容しています。これまで当たり前であったことが、そうではなくなっています。少子化による生徒数の急激な減少、私立高校の授業料無償化等、本校を取り巻く環境は年々厳しくなっています。本校は、昭和49年に、「手稲地区に大学進学を叶えらるる進学校」という地域住民の熱い期待を受け開校し、昨年度には50周年という大きな節目を迎えることができました。これもひとえに開校以来、同窓生の頑張りや保護者、地域の皆様方の温かいご支援、歴代教職員的情熱あふれる指導に支えられた賜物です。こうして「地域になくはない進学校」へと成長することが出来ました。これからは、こうした土台を踏まえながらも、社会の変化を的確に捉え、変化していくことを恐れずに本校が求められていることに対してチャレンジしていかなくてはなりません。本校の原点である進路実現を通して生徒の「夢を叶える」というゴールはそのままに、ゴールまでの様々な道のりを考え取り組んでまいります。

開校当時の地域の期待と思いを忘れず、これからも関係者や保護者の皆様と協力しながら、教育活動を推進していきたいと考えております。引き続き、手稲高校をご支援いただきますようお願い申し上げます。

「自分たちの学校を、自分たちで創る」 ～校則見直しプロジェクトの軌跡～

【生徒指導部より】

学校では今年度、生徒主体のスマホ利用ルールの見直しを支援しました。アンケートや各クラスの代表者会議（代議員会）を経て、「自由と責任」を学ぶプロセスを生徒会長が報告します。

【生徒会長（小川一純さん）の言葉】

今年度、第51期生徒会執行部では、『生徒が主体で学校のルールを作る』ということを進め、その第1段階としてスマートフォンのルールを変えることを生徒が主体となって決めていきました。

まず、生徒会が各クラスの代議委員を通して全校生徒から意見を収集しました。その意見を基に、スマートフォンのルールに関する原案を作成し、先生方とも協議したのちに試行期間を設けていきました。

このように生徒が学校生活のきまりを考えてそれを試行し、実現していくためには大切なことがあると思います。それは日ごろから今の生活のきまりを守り、先生方などの信頼を獲得していくことです。実際、諸先輩方や、現手稲高生がきまりをしっかりと守ってきたからこそ、このように改正が出来たと思います。

これからも時代や生徒のニーズに応じて不要な決まりが出てくると思いますが、生徒一同が自分たちで決めた決まりを守り、信頼を重ねて、ルールを変えていけるようなサポートを生徒会執行部がしていきたいです。

【結びに代えて】

ルールを「守られるもの」から「自ら運用するもの」へ。生徒の「考える力」を尊重し、今後もその挑戦を教職員一同で支援してまいります。（文責：生徒指導部長 鵜沼範考）

1年次 インターンシップ

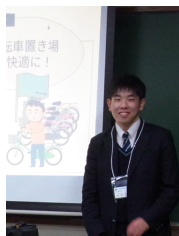
事前学習を経て58社での1日インターンシップを実施し、働く意義を学んだ成果を報告会にて発表しました。



2年次 学び探究ゼミ

16講座のゼミ形式で4週間の課題解決学習を行い、実験や議論を通して得た学びを最後に発表しました。

- ゼミ 心理学 教育学 生物学 薬学
- デザイン学 機械工学 看護学
- 情報工学 リハビリテーション学
- 電気電子工学 経済学 歴史文化
- 人類学 法律学 外国語学 経営学



手稲高校学校公式note

本校では、学校の様子や生徒の活動を広く発信するため、情報発信プラットフォーム「note（ノート）」を活用しております。生徒たちのいきいきとした姿を

随時掲載しておりますので、ぜひご覧ください。今後も関係各位との連携を大切にしながら、生徒一人ひとりの志望大学合格、そしてその後の豊かな人生の実現に向けて取り組んでまいります。引き続きご理解とご支援をお願いいたします。

note : <https://teine-hs.note.jp/>

学校HP : <http://www.teine-h.hokkaido-c.ed>